

# Symantec NetBackup™ Appliance リリースノート

リリース 2.6.0.3

NetBackup 52xx

# Symantec NetBackup™ Appliance リリースノート

マニュアルバージョン: 2.6.0.3

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2014 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、および NetBackup は、Symantec Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のまま提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation  
350 Ellis Street  
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

# 目次

第 1 章	NetBackup Appliance 2.6.0.3 の機能、拡張機能、 および変更 .....	5
	NetBackup 52xx のハードウェアの機能 .....	5
	NetBackup Appliance 2.6.0.3 の新機能、拡張機能、および変更につい て .....	10
	NetBackup Appliance 2.6.0.3 の新機能、拡張機能、変更 .....	10
第 2 章	NetBackup Appliance の互換性 .....	13
	ソフトウェアリリース形式について .....	13
	NetBackup Appliance リリースの互換性 .....	14
	NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて .....	15
	NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知 .....	16
第 3 章	操作上の注意 .....	18
	NetBackup Appliance 2.6.0.3 の運用上の注意について .....	18
	NetBackup Appliance の一般的な注意 .....	19
	NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意 .....	19
	インストールと構成の注意 .....	20
	アップグレードとロールバックの注意 .....	21
	VMware に関する注意事項 .....	22
	国際化とローカライゼーションの注意 .....	23
	NetBackup サポートユーティリティについて .....	24
	NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer) .....	24
	NetBackup サポートユーティリティ (nbsu) .....	25
	その他の利用可能なサポートについて .....	26
	ログファイルの使用について .....	26
付録 A	リリース内容 .....	29
	現在のリリースの内容について .....	29
	リリース内容の規則について .....	30
	NetBackup Appliance 2.6.0.3 のリリース内容 .....	31
	NetBackup Appliance 2.6.0.3 EEB (Emergency Engineering Binary) リスト .....	31
	NetBackup Appliance 2.6.0.3 のその他の既知の修正 .....	32

付録 B	関連ドキュメント .....	33
	NetBackup Appliance のマニュアルについて .....	33

# NetBackup Appliance 2.6.0.3 の機能、拡張機能、 および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 52xx のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.0.3 の新機能、拡張機能、および変更について](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.0.3 の新機能、拡張機能、変更](#)

## NetBackup 52xx のハードウェアの機能

このリリースは、アプライアンスの **52xx** ハードウェアアーキテクチャをサポートします。これらのアーキテクチャは同じソフトウェアを実行するので、次のどのモードでも構成できます。

- アプライアンスのマスターサーバー
- アプライアンスのマスターサーバーおよびメディアサーバー
- アプライアンスのメディアサーバーのみ

すべてのアプライアンスアーキテクチャは、次の特徴および機能をサポートします。

- デュアルプロセッサ、クアドコア、Intel ベースのシステム
- それぞれに、いくつかのホットスワップ外部ドライブがある
- 外部テープドライブをサポートするファイバーチャネルの接続性
- 基本構成は、ギガビットイーサネットネットワークをサポートする
- 高性能ハードウェア RAID コントローラ

- Intel X520 SR2 10 GB イーサネットカードがシステムの標準またはオプションになっている
- それぞれが、コードベースとして NetBackup を使用する
- Linux オペレーティングシステム (シマンテック社提供)
- それぞれが、NetBackup Appliance ソフトウェアの最新版を実行できる
- それぞれが、マスターサーバーおよびメディアサーバー上のメディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージをサポートするMSDP は 52xx アプライアンスの利用可能な最大ストレージ容量まで提供します。

NetBackup 5220 アプライアンスには、フォーマット済み総ストレージ容量 4 TB を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 5230 アプライアンスには、1 TB と 3 TB のストレージ容量で使用できる 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。1 TB のディスクは、4 TB のフォーマット済み総ストレージ容量を提供します。3 TB のディスクは、14 TB のフォーマット済み総ストレージ容量を提供します。

NetBackup 5220 と 5230 には、追加ストレージとしてシマンテックストレージシェルフを接続できます。ストレージシェルフは 2 TB または 3 TB のディスクドライブをサポートできますが、シェルフ内のすべてのドライブは同じ容量にする必要があります。

表 1-1 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5220 アプライアンスで利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-1 NetBackup 5220 のストレージ容量オプション

アプライアンスのストレージドライブ (TB)	アプライアンスの利用可能ストレージ容量 (TB)	ストレージシェルフドライブ (TB)	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ 1 つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ 2 つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ 3 つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ 4 つの利用可能ストレージ容量 (TB)
1	4.55	2	24	28.55	52.55	*	*
1	4.55	3	36	40.55	76.55	112.55	148.55

\* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

表 1-2 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5230 アプライアンスで利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-2 NetBackup 5230 のストレージ容量オプション

アプライアンスのストレージドライブ (TB)	アプライアンスの利用可能ストレージ容量 (TB)	ストレージシェルフドライブ (TB)	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ1つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ2つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ3つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ4つの利用可能ストレージ容量 (TB)
1	4.55	2	24	28.55	52.55	*	*
1	4.55	3	36	40.55	76.55	112.55	148.55
3	13.65	2	24	37.65	61.65	*	*
3	13.65	3	36	49.65	85.65	121.65	157.65

\* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

表 1-3は、必要なストレージ容量の達成に必要なソフトウェアのバージョンのレベルを示します。

表 1-3 最大ストレージのための NetBackup Appliance ソフトウェアの依存関係

NetBackup Appliance ソフトウェアのバージョン	接続されたストレージシェルフの最大数	最大ストレージ容量 (接続されたストレージシェルフを含む)	最大 MSDP ストレージ容量
2.5 - 2.5.4	2	76 TB	64 TB
2.6.0.1	2	86 TB (14-TB 5230 アプライアンスを含む)	86 TB*
2.6.0.2 以降	4	158 TB	158 TB*

\*最適なパフォーマンスのために、MSDP パーティションをアプライアンスのストレージと拡張ストレージに分割しないでください。シマンテック社は、パフォーマンス最適化のために、MSDP パーティションを拡張ストレージに置くことを推奨します。

## NetBackup 5230 のハードウェアの機能

次のリストに、5230 アプライアンス専用の機能を示します。

- 重複排除エンジンは、最大 100 分の 1 のストレージ削減を実現します。クライアント側のプラグインは、同様のレベルの帯域幅削減を提供します。
- フィンガープリントや RAID の冗長性のため、全体のストレージ能力はディスクサイズと合計ディスク数の単純な掛け算にはなりません。

**NetBackup 5230** アプライアンスは、ストレージシェルフを追加することなく、**4 TB (1 TB ドライブを使用) または 14 TB (3 TB ドライブを使用)** のストレージを提供します。**5230** アプライアンスは、**Symantec Storage Shelf** なしの状態、または **1 つまたは 2 つの Symantec Storage Shelf** 付きの状態 で出荷されます。新たなストレージシェルフを **2 つ**まで追加できます。各ストレージシェルフには、**24 TB (2 TB ディスクを使用) または 36 TB (3 TB ドライブを使用)** の容量があります。**4 つ**のストレージシェルフを接続した場合の **5230** アプライアンスの最大容量は **158 TB** です。

表 1-2 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に **NetBackup 5230** アプライアンスで利用可能なすべてのストレージ構成を示します。

- 冗長な電源モジュールとファンモジュールをサポートします。**5230** はホットスワップ対応のディスクモジュールと電源モジュールもサポートします。
- システムディスクドライブは、シャーシの外部にあります。これらのドライブは、シャーシを開いたり、システムをシャットダウンしたりすることなくホットスワップできます。この機能は、**NetBackup 5220** からの機能強化です。
- 帯域外の管理ネットワークインターフェースを、独立した形で提供します。ネットワークを経由してアプライアンスの電源オン、電源オフ、リセットをリモートで行えます。**KVM over IP** 経由でのアプライアンスのリモート構成とリモート管理をサポートします。**SNMP** トラップをサポートし、自動的に警報を報告します。帯域外の管理チャネルを経由したディスク情報の報告をサポートします。
- **RAID 1 と RAID 6:**
  - アプライアンスシステムディスク: **RAID 1 (ソフトウェア RAID)**
  - ストレージシェルフのデータストレージディスク: **RAID 6**
- **NetBackup 5230** アプライアンスは、**1、4、または 5 枚の FC HBA カード**をあらかじめ取り付けられた状態で発注できます。**1 つ以上**のストレージシェルフを使用する場合は、**SAS RAID カード**をあらかじめ取り付けられた状態で発注できます。**10 Gb** イーサネットカードの発注と出荷時取り付けもできます。
- 背面パネルのポート:
  - **PCI ライザーアセンブリの 1 つ**に装着されるカードにある **2 つの SAS** ポート。**SAS** ポートは、ストレージシェルフに接続されます。
  - **1 つの 1 GB/秒 IPMI** 管理ネットワークポート。
  - **1 つの VGA** ポート。
  - **3 つの USB 2.0** ポート。
  - **リンクおよび動作 LED** 付きの **4 つの 1GE** ネットワークポート。
  - **リンクおよび動作 LED** 付きの **2 つの 10GE** ネットワークポート。



- 6 つの PCI スロットにインストールできるのは、1 つの SAS カードと 1 つの 10 GB イーサネットのみです。他のスロットは、追加のファイバーチャネル接続のために使用できます。

表 1-4 に、NetBackup 5220 と NetBackup 5230 アプライアンス間の違いの概要を示します。

**表 1-4** NetBackup 5220 アプライアンスと NetBackup 5230 アプライアンスの比較

パラメータ	NetBackup 5220	NetBackup 5230
コア	4	6
キャッシュ (MB)	12	15
RAID キャッシュ	512 MB	1 GB
速度 (GHz)	2.4	2.0
ターボ速度 (GHz)	2.66	2.5
QPI 速度 (GT/秒)	5.86	7.2
システムメモリ (GB)	96	128
メモリ構成 (DIMM)	8 GB x 12	8 GB X 16
熱量 (ワット)	80	95
データ保持	1 つのリチウムイオンバッテリーのバックアップユニット	フラッシュとスーパーキャパシタを搭載する 2 つのメンテナンスフリーのバックアップユニット (MFBU)
PCI アドインカードスロット	5	6
オンボード 10 GB イーサネットポート	0	2
PCI アセンブリへの追加 10 GB イーサネットカード	可	可
PCI アセンブリへの追加 1 GB イーサネットカード	可	不可

両方のアプライアンスのハードウェアアーキテクチャについては、『NetBackup Appliance と Symantec Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

## NetBackup Appliance 2.6.0.3 の新機能、拡張機能、および変更について

多くの新機能に加え、このリリースでは、NetBackup Appliance の以前のリリースからの問題点や改善点に対する多くの拡張機能を提供します。このリリースの NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更についての情報は、この章の以降のセクションで見つけることができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

このリリースでは、NetBackup 52xx アプライアンスソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題が修正されています。これらの問題の多くは、Salesforce.com (SFDC) の形式で文書化されているお客様固有の問題に関するものです。このリリースに組み込まれた修正の多くは、個別のエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドル (EEB) として利用できます。EEB は、NetBackup 52xx アプライアンスソフトウェアの以前のバージョンにおけるお客様固有の問題に対処するために作成されました。このリリースに含まれているエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドルのリストは、このドキュメントの付録「リリース内容」にあります。

NetBackup 7.6.0.3 は、NetBackup Appliance 2.6.0.3 リリースによりインストールされた NetBackup ソフトウェアのバージョンです。NetBackup 7.6.0.3 の新しい機能、拡張および修正については、シマンテック社のサポート Web サイトの文書 NetBackup 7.6.0.3 リリースノートに記載しています。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7221>

## NetBackup Appliance 2.6.0.3 の新機能、拡張機能、変更

次のリストに、NetBackup 52xx Appliance 2.6.0.3 リリースの新機能、拡張機能、および変更を示します。

- NetBackup Appliance 2.6.0.3 では、次の機能の追加によりセキュリティの実装が向上しています。
  - Active Directory サーバーを構成して、ユーザーとユーザーグループをアプライアンスに登録できるようになりました。現在、この機能は NetBackup Appliance のシェルメニューから Settings > Security > Authentication > Active Directory コマンドを使って利用できます。
  - NetBackup CLI ユーザーの役割をユーザーとユーザーグループに付与し、NetBackup Appliance のシェルメニューからすべての NetBackup コマンドを実行できる権限を与えることができます。

- ユーザーが SSH を介して NetBackup Appliance のシェルメニューにログインした後に表示されるポリシーバナーを設定できます。新しいポリシーバナーを設定するための [設定 (Settings)] > [セキュリティ (Security)] > [PolicyBanner (PolicyBanner)] コマンドが追加されています。
- NetBackup アプライアンスとストレージシェルフには現在 2 つの AC 電源コードが付属しています。ラック環境内での電力配分を改善するため、シマンテック社はこれらのデバイスで AC 電源コードの代わりに 2 つの電力配分装置 (PDU) 対応コード (C13-C14) への移行を開始しました。新しいコードへの移行は段階的に実施されます。この移行が完了するまでは、ご購入いただいた新しいアプライアンスまたはストレージシェルフに AC 電源コードまたは PDU 対応コードのいずれかが付属します。
- NetBackup Appliance Web コンソールでいくつかの操作拡張機能が実装されています。この拡張機能により、Web コンソールの一貫性とユーザー操作性が向上しています。拡張機能の一部として、一貫性のあるレイアウト、ページタイトルと説明の追加、Web コンソール要素のクリック対応が含まれます。
- NetBackup Appliance Web コンソールおよび NetBackup Appliance のシェルメニューから、IPMI をリセットできます。IPMI インターフェースがハングアップしたり応答を停止した場合にのみ IPMI をリセットしてください。  
 NetBackup Appliance Web コンソールの [管理 (Manage)] > [ホスト (Host)] > [IPMI] タブから IPMI をリセットできます。NetBackup Appliance のシェルメニューから、[サポート (Support)] > [IPMI Reset (IPMI Reset)] コマンドを使って IPMI をリセットすることもできます。
- NetBackup Appliance バージョン 2.6.0.3 から、既存のネットワーク環境で VLAN を構成できるようになりました。NetBackup Appliance Web Console と NetBackup Appliance Shell Menu には、アプライアンスの VLAN を管理し、サポートする重要な拡張機能が導入されています。  
 [設定 (Settings)] > [ネットワーク (Network)] ページの [ネットワーク (Network)] タブの拡張により、変更された新しいオプションを使って VLAN 構成を行うことができます。これらのオプションにより、ナビゲーションが容易になり、優れたユーザーエクスペリエンスが提供されます。主な拡張機能のいくつかを次に示します。
  - ネットワークプロパティとネットワーク構成を管理するための独立したセクション。
  - インターフェースプロパティとルーティングプロパティを表示し、管理するための個別のタブ。
  - インターフェースプロパティテーブルにリストされたインターフェースを編集したり削除するためのプロビジョニング。
  - 結合の作成、VLAN のタグ付け、静的ルート情報の追加など重要なネットワーク操作を実行するための個別のタスクバー。

- **NetBackup Appliance Shell Menu**では、**[ネットワーク (Network)]**ビューにコマンドの重要な拡張機能が導入され、**VLAN** が実装されたネットワークの効率的な管理を実現しています。

主な拡張機能のいくつかを次に示します。

- **VLAN** 固有の操作を管理するためのオプションを提供する新しい **Network > VLAN** コマンド。
- **Network > LinkAggregation** コマンドの新しい **Create** と **Delete** コマンドでは、**IP** アドレスの割り当てでありまたは割り当てなしで結合を作成したり、結合を削除できます。
- **IPv4** と **IPv6** コマンドを使って **VLAN** インターフェースを構成するためのプロビジョニング。
- **Unconfigure** コマンドを使って **VLAN** インターフェースを構成解除するためのプロビジョニング。
- **[管理 (Manage)]** タブの下に表示される新しい **[vCenter クレデンシヤル (vCenter Credentials)]** メニューでは、**NetBackup Appliance Web** コンソールからクライアントの **vCenter** クレデンシヤルをダウンロードできます。**vCenter** クライアントクレデンシヤルは、仮想マシンをリストアする上で **vCenter** の **NetBackup** プラグインを認証するために必要とされます。
- **[サポート (Support)] > [RestartService (RestartService)]** コマンドの機能は、指定されたサービスを停止できるように拡張されています。拡張された関数は、**[サポート (Support)] > [サービス (Service)]** という更新されたコマンドから使用できます。**[再起動 (Restart)]** と **[停止 (Stop)]** の 2 つのコマンドオプションがあります。

# NetBackup Appliance の互換性

この章では以下の項目について説明しています。

- [ソフトウェアリリース形式について](#)
- [NetBackup Appliance リリースの互換性](#)
- [NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて](#)
- [NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知](#)

## ソフトウェアリリース形式について

さまざまなレベルでの **NetBackup** のリリースを利用できるようにすることで、シマンテック社はお客様のニーズに対応するというポリシーを順守しています。次のリストで、さまざまなリリース形式と、それに対応するバージョン番号付与の仕組みについて示します。

**NetBackup Appliance** 製品ではこれらのリリース形式と番号付与の仕組みを使います。

- メジャーリリースは、一連のリリースのうち最初のリリースです。この形式のリリースには、多くの新機能や拡張機能が含まれます。
- マイナーリリースは、メジャーリリース番号の後にドットを付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6** のようになります。このリリース形式の要件は、メジャーリリースとほぼ同じです。メジャーリリースよりも小規模な新機能や拡張機能が含まれます。
- ソフトウェアリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを **2** つ付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6.1** のようになります。このリリース形式では、いくつかの新機能や拡張機能、および多くの製品の修正が含まれています。
- メンテナンスリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを **3** つ付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6.0.2** のようになります。このリリース形式は主に、メジャー、

マイナー、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発された修正から構成されています。このリリース形式には、いくつかの新機能や拡張機能も含まれます。

---

メモ: このトピックでは、例として NetBackup Appliance バージョン 2.6.1 を使います。NetBackup Appliance のこのバージョンは、このドキュメントの発行時にはありません。

---

## NetBackup Appliance リリースの互換性

NetBackup Appliance を使用すると、既存の NetBackup 環境に、アプライアンスをメディアサーバーまたはクライアントとしてすばやく追加することができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup の NetBackup Appliance との互換性については、シマンテック社のサポート Web サイトの次の技術メモを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH136970>

Symantec NetBackup は、環境内のマスターサーバーが、同じ環境内のメディアサーバーおよびクライアントのバージョンレベルと同じかそれ以降になっているように常に管理されています。NetBackup 環境全体を最新のメンテナンスリリース (ドット 3 つ) を使用して最新に保つことをお勧めします。ただし、NetBackup ではクライアントおよびメディアサーバーがマスターサーバーと異なるメンテナンスリリースでも稼動する環境の柔軟性を提供します。たとえば、マスターサーバーで稼動中のバージョンが 2.6.0.1 (7.6.0.1) である環境の、メディアサーバーまたはクライアントのバージョンを 2.6.0.2 (7.6.0.2) にアップグレードすることが可能です。

NetBackup カタログがマスターサーバーに存在するため、マスターサーバーはカタログバックアップのためのクライアントであると見なされます。NetBackup の構成にメディアサーバーが含まれている場合、マスターサーバーと同じバージョンの NetBackup を使用してカタログバックアップを実行する必要があります。サポートしているバージョン混在については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

p.13 の「ソフトウェアリリース形式について」を参照してください。

表 2-1 に、現在の NetBackup Appliance 2.6 の製品ラインでサポートされるさまざまな互換方式を示します。カッコ内の数は、NetBackup Appliance ソフトウェアの特定のバージョンに適用される基本の NetBackup のバージョンです。

表 2-1 NetBackup Appliance 2.6.0.3 リリースの互換性

NetBackup Appliance のマスターサーバーバージョン	NetBackup Appliance のメディアサーバーバージョン	NetBackup クライアントバージョン
2.6.0.x (7.6.0.x)	2.6.0.x (7.6.0.x)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
2.6.0.x (7.6.0.x)	2.5.x (7.5.0.x)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
2.6.0.x (7.6.0.x)	2.5 (7.5.0.2)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
2.6.0.x (7.6.0.x)	2.0.x (7.1.0.x)	7.1、7.1.0.x

すべての NetBackup 52xx アプライアンスは NetBackup Appliance バージョン 2.6.0.3 にアップグレードできます。

---

**メモ:** アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.5 より前の場合は、NetBackup Appliance 2.6.0.3 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.5 にアップグレードしてから 2.6 製品ラインにアップグレードする必要があります。

---

## NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて

ソフトウェアの更新リリースが利用可能なときは、インストールして最新の製品機能と修正が確実に含まれるようにすることが推奨されます。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードするとき、更新リリースはオペレーティングシステム、NetBackup、すべてのアプライアンスインターフェースの更新バージョンをインストールすることがあります。すべてのサービスはアップグレードが始まると自動的に終了し、それからすべての更新が適用された後で自動的に再起動されます。

---

**メモ:** アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.5 より前の場合は、NetBackup Appliance 2.6.0.3 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.5 にアップグレードしてから 2.6 製品ラインにアップグレードする必要があります。

---

システム停止時間を最小化するため、アプライアンスのアップグレードは前もって計画することが推奨されます。

以下に、アプライアンスソフトウェアのアップグレードをどのように計画して実行する必要があるのかについて説明します。

- 常にシステムの動作状態が最も低いときにアップグレードをスケジュール設定します。アップグレードを開始する前にすべてのバックアップとリストア操作を中断することが推奨されます。
- ソフトウェアの更新を始める前に、接続が切断されないようにするための対策を取ることを推奨します。デバイスの構成に使用するコンピュータは、スリープ、シャットダウン、電源の遮断の動作をしないように設定してください。そのようにしないと、ネットワーク接続が失われます。インストール中に接続が失われると、操作は失敗します。
- アプライアンスのマスターサーバーは常に、一緒に使われるあらゆるアプライアンスメディアサーバーと同じかそれ以降のバージョンである必要があります。このルールの唯一の例外は、シマンテック社がメジャー、マイナー、ソフトウェア更新のあらゆるリリースに対してメンテナンスリリースを提供している場合です。メンテナンスリリースのバージョン番号は 4 つの数字 (2.x.x.x) で識別されます。
- アプライアンスをアップグレードするときは、アプライアンスで利用可能なソフトウェアの更新のみを使う必要があります。アプライアンスソフトウェアの更新は、アプライアンス、NetBackup、オペレーティングシステムのコンポーネントの更新から成っている完全なパッケージです。シマンテック社は任意のコンポーネント個別のアプライアンスのアップグレードはサポートしません。
- アプライアンスマスターサーバーは、必ずアプライアンスメディアサーバーをアップグレードする前にアップグレードする必要があります。
- NetBackup Appliance 2.5.x からこのバージョンにアップグレードするときに、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) は変換の完了に 13 % の空き領域が必要です。空き領域が足りない場合は、アップグレードに失敗します。
- 2.5.x から 2.6 製品ラインへのアップグレードを完了するにはおよそ 3 時間かかりますが、環境によってはそれ以上かかることがあります。その間にアプライアンスが数回再起動することがあります。これは正常な動作です。
- アップグレードを開始したら、完了するまで実行する必要があります。

---

**メモ:** アップグレードを中止しようとはしないことが推奨されます。中止した場合、予想外のシステム動作を経験することがあります。たとえば、サービスの再起動中にアップグレードが中止されると、すぐにバックアップが失敗することがあります。この動作が予想どおりですが、システムの他の部分が影響される可能性もあります。

---

## NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知

NetBackup Appliance の製品には、シマンテック社が帰属を明示する必要があるサードパーティのソフトウェアが含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。ソフ



トウェアに含まれる使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権の表記およびライセンスについては、次の Web サイトにある『Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』ドキュメントに記載されています。

<http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/>

# 操作上の注意

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance 2.6.0.3 の運用上の注意について](#)
- [NetBackup Appliance の一般的な注意](#)
- [NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意](#)
- [インストールと構成の注意](#)
- [アップグレードとロールバックの注意](#)
- [VMware に関する注意事項](#)
- [国際化とローカライゼーションの注意](#)
- [NetBackup サポートユーティリティについて](#)
- [ログファイルの使用について](#)

## NetBackup Appliance 2.6.0.3 の運用上の注意について

この章では、NetBackup Appliance 2.6.0.3 の運用上、付属マニュアルの他の箇所では文書化されない可能性のある重要な点について説明します。この文書はシマンテック社のサポート Web サイトで公開されたもので、NetBackup Appliance 2.6.0.3 の GA リリース後更新される場合があります。そのため、次のリンクを参照して、最新のリリース情報を確認することをお勧めします。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7458>

NetBackup Appliance 2.6.0.3 では NetBackup 7.6.0.3 ソフトウェアがインストールされるため、NetBackup 7.6.0.3 に適用される運用上の注意は、NetBackup Appliance 2.6.0.3 にも当てはまります。NetBackup の運用上の注意については、シマンテック社の

サポート Web サイトの『Symantec NetBackup 7.6.0.3 リリースノート』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7221>

## NetBackup Appliance の一般的な注意

次のリストに、NetBackup 52xx アプライアンスの一般的な使用に関する注意事項と既知の問題を示します。

- NetBackup Appliance のこのリリースでは、アプライアンスがバックアップホストまたはリカバリホストとして使用された場合は、レプリケーションディレクタ (RD) リストアで動的マルチパス (DMP) がサポートされません。
- RAID コントローラアダプタの学習サイクルでは、2 つの電子メール警告を受信します。RAID ポリシーが書き戻しモードから WriteThrough モードに変更された際の警告と、RAID ポリシーが WriteThrough モードから書き戻しモードに戻った際の警告です。ただし、このリリースでは、BBU が失敗ステータスの場合は、1 つ目の電子メールのみが送信されます。2 つ目の警告は、サイクルが完了するとポリシーが書き戻しモードに戻らないので送信されません。
- アプライアンスのバッテリバックアップ装置 (BBU) が再設定状態の場合、BBU の状態を示す電子メール警告が送信されます。ただし、このリリースでは電子メール警告は送信されません。

## NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意

次のリストに、NetBackup Appliance Web コンソールと NetBackup Appliance のシェルメニューに関する注意事項と既知の問題を示します。

- アプライアンスインターフェースには、IPv6 アドレスからアクセスすることはできません。
- ソフトウェアの更新が正常に完了しなかった場合のロールバック処理中に、NetBackup Appliance Web コンソールに[アプライアンスは 2.6.0.3 でアップグレード状態にありません (The appliance is 2.6.0.3 and not in upgrade state)]という状態が一時的に表示されることがあります。また、進行バーには 100% 完了と示されます。この状況では、アップグレードは正常に完了していません。  
アプライアンスは直後に再起動しますが、Web コンソールには更新状態もプロンプトも表示されません。再起動を待って完了すると、アプライアンスに再接続できます。アップグレード中に NetBackup Appliance のシェルメニューで UpgradeStatus コマンドを実行すると、詳細情報を取得できます。
- NetBackup Appliance Web コンソールに、OpenLDAP および Active Directory のユーザー名が大文字と小文字を区別して表示されますが、NetBackup Appliance のシェルメニューでは区別されません。

- **NetBackup Appliance** のシェルメニューの Main > Settings > Security > Authentication > LDAP > Certificate set path name コマンドでは、証明書のパス名がハイフンを含んでいる場合、受け入れられません。ハイフンが含まれるパス名は、**NetBackup Appliance Web** コンソールで受け入れられます。
- **NetBackup Appliance Web** コンソールの[設定 (Settings)]>[通知 (Notification)]>[登録 (Registration)]ページから担当者の電子メールアドレスを複数追加することができません。ただし、**NetBackup Appliance** のシェルメニューからは、担当者の電子メールアドレスを複数追加できます。シェルメニューから複数の電子メールアドレスを追加するには、Settings > Alerts > CallHome Registration Email コマンドを実行し、複数の電子メールアドレスを、セミコロンで区切って入力します。
- このリリースでは、**NetBackup Appliance** シェルメニューの[メイン (Main)]>[監視 (Monitor)]>[失敗した NetBackup ジョブ (NetBackup Jobs Failed)]コマンドを実行した場合、失敗した一部のジョブの情報が表示されません。[メイン (Main)]>[監視 (Monitor)]>[すべての NetBackup ジョブ (NetBackup Jobs All)]コマンドを使うと、各ジョブの状態列を参照して失敗したジョブを確認することができます。
- アプライアンスがプロビジョニングされていない場合は、**NetBackup Appliance Web** コンソールランディングページに次の通知が表示されます。  
「コールホームサービスが機能していません。システムがコールホームサーバーでプロビジョニングされているかシマンテック社のサポートにご連絡ください。」  
ただし、この通知は表示されない場合もあります。アプライアンスの日付と時刻がネットワークタイムプロトコル (NTP) ごとに設定されていない場合、ランディングページには日付と時刻を更新するための通知のみが表示されます。NTP ごとに日付と時刻を設定すると、コールホーム通知が表示されます。

## インストールと構成の注意

次のリストに、アプライアンスのインストールと構成に関する注意事項と既知の問題を示します。

- クライアント側の重複排除操作が、状態エラー 83 が表示され失敗することがあります。  
アプライアンスを構成するときに DNS を使用している場合、すべてのアプライアンスおよびマスターサーバーのネットワーク名が DNS 解決可能 (完全修飾ホスト名 (FQHN) および短縮名) であることを確認してください。DNS を使用しない場合、構成するアプライアンスに対する適切なホストエントリを入力していることを確認してください。  
DNS を設定せずにアプライアンスを構成し、/etc/hosts ファイルに FQHN のマップに対し解決する IP アドレスがない場合、状態エラー 83 が表示される可能性があります。アプライアンスメディアサーバーの required\_interface 変数で設定された値が短縮名で、完全修飾ホスト名でない場合、クライアントが正しく解決しない場合があります。

この問題を回避するには、その DNS および /etc/hosts ファイルが存在し、両方のファイルが解決可能なホスト名であることを確認します。

このエラー条件についての詳細は、シマンテック社のサポート Web サイトの次の技術メモを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH179320>

- 共有ディレクトリにソフトウェアの更新をコピーする場合、コピーが完了するまでは他のコマンドを開始しないでください。コピー処理中にコマンドを実行すると、ソフトウェアの更新がリストに登録され利用可能になったことが表示される場合があります。ただし、そのソフトウェアの更新をインストールすると失敗する場合があります。このような問題が起こらないよう、コピー処理が完了するまでは他のコマンドを実行しないでください。
- メディアサーバーの初回構成時に「ライセンスがありません」というメッセージを受信した場合、この電子メールを無視しても安全です。この電子メールはホスト名の構成時に送信されます。新しいホスト名への変更時にライセンスキーファイルの名前が変更され、警告機構で一時的にライセンスを特定できなくなります。構成が完了すると、ライセンスは正しく設定されます。ライセンスキーは、**NetBackup Appliance Web** コンソールの[管理 (Manage)]>[ライセンス (License)]ページまたは **NetBackup Appliance** のシェルメニューの Main > Manage > License > List コマンドで確認できます。

## アップグレードとロールバックの注意

次のリストに、アップグレードとロールバックに関する注意事項と既知の問題を示します。

- アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.5 より前の場合は、**NetBackup Appliance 2.6.0.3** に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.5 にアップグレードしてから 2.6 製品ラインにアップグレードする必要があります。
- アプライアンスの現在のバージョンが 2.5 で、このバージョンのアプライアンスソフトウェアにアップグレードする場合、**NetBackup Appliance** のシェルメニューを使用してソフトウェアの更新をインストールする必要があります。**NetBackup Appliance** の **Web** コンソールを使用して、ソフトウェアの更新をダウンロードできます。ただし、**Web** コンソールを使用してアップグレードをインストールすることはできません。ソフトウェアの更新のインストールには、シェルメニューを使用してください。
- **NetBackup Appliance 2.5.x** からこのバージョンにアップグレードするときに、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) は変換の完了に 13 % の空き領域が必要です。空き領域が足りない場合は、アップグレードに失敗します。
- このリリースの **NetBackup Appliance** では、マスターサーバーアプライアンスからメディアサーバーアプライアンスへのリモートアップグレードはサポートされていません。メディアサーバーアプライアンスのアプライアンスソフトウェアをこのバージョンにアップグレードするには、各メディアサーバーアプライアンスに「admin」でログインし、アップグレード手順を実行します。

- 2.5.xからのアップグレードが正常に完了または正常にロールバックされた後、システムドライブの再構築が自動的に始まります。この処理は通常、3～4時間程度ですが、システムの負荷によってはさらに時間がかかる場合があります。この処理中に、ドライブを取りはずさないでください。  
再構築処理がシステム負荷に基づいた予測よりも著しく時間がかかる場合は、不良なドライブがある可能性があります。シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。
- 未設定のアプライアンスを2.5.xからこのバージョンの NetBackup Appliance にアップグレードする場合は、アップグレードではなくアプライアンスの再イメージングを実行します。未設定のアプライアンスの再イメージング時にホスト名やIPアドレスなどのすべての設定が失われ、ストレージはリセットされます。
- 未設定のアプライアンスを2.5.xからこのバージョンの NetBackup Appliance にアップグレードすると、アプライアンスに工場出荷時インストールのチェックポイントが設定されます。設定済みアプライアンスを2.5.xからアップグレードした場合は、アップグレード後のチェックポイントが設定されます。

## VMware に関する注意事項

次のリストに、VMware に関する注意事項および既知の問題を示します。

- 同時に実行されるVMのリストアは、アプライアンスをSANのリストアホストとして使用すると失敗する可能性があります。SANのトランスポートモードを使用して複数のVMを同時にリストアすると、ジョブステータスログに、次のようなメッセージが記録される場合があります。

```
4/19/2012 1:16:14 PM - Error bptm(pid=30649) cannot write  
data to socket, Connection reset by peer
```

```
4/19/2012 1:16:14 PM - Info bptm(pid=30648) EXITING with status 24
```

シマンテック社では、この問題について VMware のサポート要求: 12172237605 を発行しました。

- 次を行ってみてください。  
[仮想マシンオプション (Virtual Machine Options)]ダイアログボックスで、リストアした仮想ディスク形式で[シンプロビジョニング (Thin Provisioning)]を選択してリストアを再試行します。
- それでも失敗する場合には、[リカバリオプション (Recovery Options)]ダイアログでトランスポートモードに[NBD]を選択して、再度リストアを行ってみてください。
- NetBackup Appliance のこのリリースでは、VM インスタントリカバリに Windows ベースの VMware リカバリホストが必要です。このホストは、インスタントリカバリを開始するために必要なオブジェクトを識別する必要があります。リカバリホストは、データ移動には使用されません。vCenter へのネットワーク接続があれば、環境内に NetBackup

クライアント (物理または仮想) がインストールされている任意の Windows ベースのシステムを使用できます。

VMware リカバリホスト (NetBackup クライアント) は Windows ベースにする必要がありますが、バックアップを作成した VMware バックアップホストは Windows、Linux、または NetBackup Appliance ベースにできます。バックアップホストが Linux の場合は、`nbrestorevm` コマンドの `-vmproxy` オプションを使用して Windows ベースの VMware リカバリホストを指定する必要があります。詳しくは、『Symantec NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。

## 国際化とローカライゼーションの注意

次のリストに、国際化とローカライゼーションに関する注意事項と既知の問題を示します。

- NetBackup Appliance のシェルメニューのユーザーインターフェースはマルチバイト文字を入力したり修正できないので、どの言語にもローカライズされていません。
- アプライアンスの構成を完了した後に、英語以外の文字が NetBackup Appliance のシェルメニューユーザーインターフェースで表示されません。

この問題は、NetBackup Appliance の初期構成中に、NetBackup Appliance Web コンソールを使うと起きます。[登録 (Registration)] ページで、アプライアンスの登録で英語以外の文字を入力すると、英語以外の文字がシェルメニューのインターフェースに表示されません。

- 英語版以外の Windows システムに NetBackup-Java 管理コンソールをインストールして NetBackup アプライアンス内部の NetBackup サーバーを管理する場合に、NetBackup サーバーにログインしようするとコンソールがハングアップする可能性があります。この問題を避けるには、次の回避策を講じます。

- NetBackup-Java 管理コンソールをインストールしている Windows システムの `install_path¥Java¥setconf.bat` ファイルを修正して、適切なエンコードで `NBJAVA_FILE_ENCODING` パラメータを設定します。SystemLocale コマンドを使ってアプライアンスシステムで以前に設定したエンコードと同じエンコードを使います。

コード名を判断するには、次の Web サイトで Supported Encodings 文書の Canonical Name for java.nio API and java.lang API 列を参照してください。

[Oracle Supported Encodings 文書](#)

たとえば、アプライアンスシステムで `zh_CN.utf8` や `ja_JP.utf8` のような UTF-8 ロケールを設定した場合は、`java.nio API` と `java.lang API` の正規名は UTF8 になります。

次のように `install_path¥Java¥setconf.bat` ファイルの `SET NBJAVA_FILE_ENCODING` パラメータをコメント解除し、(この例では) UTF8 を指定します。

```
REM SET NBJAVA_FILE_ENCODING=
```

次のように指定します。

```
SET NBJAVA_FILD_ENCODING=UTF8
```

SystemLocale コマンドについて詳しくは、『Symantec NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』または『Symantec NetBackup Appliance 管理者ガイド』の「アプライアンス Web コンソールのログインページについて」の節を参照してください。

## NetBackup サポートユーティリティについて

NetBackup 52xx は NetBackup の問題の診断に役立つ次のサポートユーティリティを提供します。

- 「[NBDNA \(NetBackup Domain Network Analyzer\)](#)」
- 「[NetBackup サポートユーティリティ \(nbsu\)](#)」

### NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)

NBDNA ユーティリティを NetBackup プライマリまたはセカンダリアプライアンスで実行して、次のタスクを実行することができます。

- ネットワーク関連の問題を解決するための NetBackup ドメイン構成の識別
- NetBackup パフォーマンス問題の識別
- ホスト名参照に関する動作が機能するかどうかの確認
- NetBackup ドメイン内でのロールに基づき、NetBackup ホストとアプライアンス間の接続性が確立され、正しく機能するかの確認
- シマンテック社のテクニカルサポートのためのレポートの生成

NBDNA ユーティリティは出力で次の形式の情報を提供します。

```
Running audit as Media Server.

Collection Version: x.x
Collection Time: Tuesday, October 7, 2010 at 19:17:11 PM
NBU Release: NetBackup-SuSE2.6.16 7.0.1.5
NBU Version: 7.0.1.5
NBU Major Version: 7.0
NBU Minor Version: 1
NBU Patch Type: GA
NBU GlobDB Host: "host name"
Is GlobDB HOST? No
UNAME:
Hostname: sample.name.symantec.com
Host's Platform: Linux
```



Perl Architecture: Linux

Initialization completed in 14.040101 seconds.

Brief Description of What It Does (for type 1):

- 
- 1) Perform basic self checks.
  - 2) Check connectivity to Master (and EMM) server.
  - 3) If SSO configured, get list of media servers sharing devices.
  - 4) Get list of all clients which could send data here for backup.
  - 5) Test NBU ports for basic connectivity between media servers sharing devices.
  - 6) Test NBU ports for basic connectivity between media server and clients it backs up.
  - 7) Perform service level tests for phase 2
  - 8) Capture data for reports; save reports.
  - 9) Save data to report files.
- 

Discovering and mapping the NetBackup domain network for analysis by extracting data from current system's configuration.  
(To see more details, consider using '-verbose' switch.)

Probing Completed in 4.695464 seconds.

Initiating tests...

COMPLETED. Thank you for your patience.

/log/dna/sample.name.symantec.com.NBDNA.20100907.191711.zip  
Archive created successfully!  
Return /log/dna/sample.name.symantec.com.NBDNA.20100907.191711.zip  
to Symantec Support upon request.

## NetBackup サポートユーティリティ (nbsu)

nbsu ユーティリティを使うと、NetBackup とオペレーティングシステムについて適切な診断情報を収集できます。『Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド』では、このユーティリティを使う状況およびその実行方法について説明しています。

## その他の利用可能なサポートについて

NetBackup Appliance の追加のサポートが必要になった場合、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

[www.symantec.com/business/support/](http://www.symantec.com/business/support/)

NetBackup Appliance 固有の情報は、次の場所にあります。

[go.symantec.com/nba](http://go.symantec.com/nba)

## ログファイルの使用について

問題を定義してトラブルシューティングするときは、潜在的に有益な情報の取得を常に試みてください。NetBackup Appliance では、ハードウェア、ソフトウェア、システム、パフォーマンス関連データを取得できます。こうしたログファイルは、アプライアンスの実行状態、未構成ボリュームまたはアレイなどの問題の有無、温度に関する問題、バッテリーが見つからないなどの情報を取得します。こうしたログファイルは、特定のディレクトリに保存され、次の方法を使用してアクセスできます。

表 3-1 に、アプライアンスの各種ログにアクセスするために使用できる方法を示します。

表 3-1 ログファイルの表示

取得元	方法	収集されるログ
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Console の[ログファイルを収集 (Collect Log files)]ウィザードを使用して、アプライアンスからログファイルを収集できます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ NetBackup のコピーログツールが作成するログ (nbcplogs)</li> <li>■ 高可用性、ハードウェア、イベントログが記録されるアプライアンスのログ</li> <li>■ オペレーティングシステムのログ</li> <li>■ メディアサーバー重複排除プール (MSDP) 関連のすべてのログ</li> <li>■ NetBackup Appliance の Web コンソール関連のすべてのログ</li> <li>■ NetBackup およびオペレーティングシステムについての診断情報</li> <li>■ ハードウェアおよびストレージデバイスのログ</li> </ul>

取得元	方法	収集されるログ
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Console の[モニター (Monitor)]> [SCSP 監査ビュー (SCSP Audit View)]画面を使用して、アプライアンスの監査ログを取得できます。	NetBackup Appliance の監査ログ
NetBackup Appliance のシェルメニュー	Main > Support > Logs > Browse コマンドを使用して、LOGROOT/>プロンプトを開きます。ls や cd のようなコマンドを使用して、アプライアンスのログディレクトリの操作や各種ログの取得を行えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ NetBackup Appliance の構成ログ</li> <li>■ NetBackup ログ、Volume Manager ログ、openv ディレクトリに含まれている NetBackup ログ</li> <li>■ NetBackup Appliance のオペレーティングシステム (OS) インストールログ</li> <li>■ NetBackup 管理 Web ユーザーインターフェース ログと NetBackup Web サーバーログ</li> <li>■ NetBackup 52xx アプライアンスのデバイスログ</li> </ul>
NetBackup Appliance のシェルメニュー	Main > Support > Logs > VxLogView Module <i>ModuleName</i> コマンドを実行して、NetBackup Appliance VxUL (統合) ログにアクセスすることができます。Main > Support > Share Open コマンドを実行し、デスクトップを使用して、VxUL ログのマップ、共有、コピーを行うこともできます。	NetBackup Appliance 統合ログ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ All</li> <li>■ CallHome</li> <li>■ Checkpoint</li> <li>■ Commands</li> <li>■ Common</li> <li>■ Config</li> <li>■ CrossHost</li> <li>■ Database</li> <li>■ Hardware</li> <li>■ HWMonitor</li> <li>■ Network</li> <li>■ RAID</li> <li>■ Seeding</li> <li>■ SelfTest</li> <li>■ Storage</li> <li>■ SWUpdate</li> <li>■ Trace</li> </ul>

取得元	方法	収集されるログ
NetBackup Appliance の シェルメニュー	Main > Support > DataCollect コマンドを使用し て、ストレージデバイスログを収集で きます。	NetBackup 5xxx ストレージデ バイスログ
NetBackup Java アプリケー ション	NetBackup Java アプリケーシ ョンに関する問題が発生した場合、この セクションのスクリプトを使って、サ ポートに連絡するために必要な情 報を集めることができます。	NetBackup Java アプリケー ションに関するログ

# リリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- 現在のリリースの内容について
- リリース内容の規則について
- NetBackup Appliance 2.6.0.3 のリリース内容
- NetBackup Appliance 2.6.0.3 EEB (Emergency Engineering Binary) リスト
- NetBackup Appliance 2.6.0.3 のその他の既知の修正

## 現在のリリースの内容について

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。このセクションには、NetBackup Appliance のこのリリースで解決された既知の問題を示す Etrack のリストがあります。

---

**メモ:** この章では、NetBackup Appliance 限定の修正のみを説明します。NetBackup Appliance 2.6.0.3 リリースには NetBackup 7.6.0.3 に含まれるすべての修正も含まれています。NetBackup 7.6.0.3 Etracks の詳細なリストについて詳しくは、シマンテック社サポート Web サイトの『NetBackup 7.6.0.3 リリースノート』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7221>

---

NetBackup Appliance 2.6.0.3 リリースは、NetBackup Appliance 2.6.0.2 リリースのアップグレードです。以前のリリースの修正や拡張すべてを参照するには、シマンテック社のサポート Web サイトの以下のリリースノート文書を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

アプライアンスがリリースされると、**NetBackup** の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、**NetBackup** 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

**NetBackup 7.6.0.3** は、**NetBackup Appliance 2.6.0.3** リリースによりインストールされた **NetBackup** ソフトウェアのバージョンです。**NetBackup 7.6.0.3** の新しい機能、拡張および修正については、シマンテック社のサポート Web サイトの文書 **NetBackup 7.6.0.3** リリースノートに記載しています。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7221>

また、**NetBackup Appliance** の互換性に関する最新情報については、シマンテック社のサポート Web サイトの **NetBackup サーバー 7.x** ハードウェア互換性リストを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

## リリース内容の規則について

次のリストに、このセクションに続くサブセクションで使われる規則を説明します。リリース内容のサブセクションで一覧表示されている各項目は、このリリースに含まれている機能、拡張機能、または解決済みの問題を説明します。

- **Etrack インシデント**  
このリリースを対象にする **Etrack** 番号を書き留めます。
- **関連付けられたプライマリ Etrack**  
インシデント階層に存在する追加の **Etrack** 番号。
- **関連付けられたサービス要求 Etrack**  
テクニカルサポートサービス要求と関連付けられている **Etrack**。
- **説明**  
このリリースで解決された特定の問題、および追加の注意事項や回避策を説明します。回避策はパッチを適用する代わりに使うことができます。ただし、最新の利用可能なパッチレベルの「ベストプラクティス」を推奨します。
- **\*\*説明または\*\*Etrack 番号**  
このリリースで解決された、重要な問題またはデータ損失につながる可能性のある問題について説明します。これらの問題の説明を慎重に読んでください。場合によっては、**Tech Alert** リンクが提供されます。

### 現在のリリース内容の Etrack について

このセクションに一覧表示されている **Etrack**、またはその他のサービス要求 **Etrack** について詳しくは、**Symantec Operations Readiness Tools (SORT)** を使用することをお勧めします。**SORT** にアクセスするには、次の Web サイトに移動します。

<http://sort.symantec.com/netbackup>

## NetBackup Appliance 2.6.0.3 のリリース内容

次のリストには、解決された既知の問題およびこのリリースの NetBackup Appliance に含まれている既知の問題が掲載されています。

[Etrack インシデント: 3501434 (Etrack Incident: 2812749)]

- 関連付けられたプライマリ Etrack: 適用なし
- 関連付けられたサービス要求 Etrack: 適用なし
- 説明:  
アプライアンスのデータベースに無効な NTP サーバーエントリが含まれる場合、NTPServer Show、NTPServer Add、およびNTPServer Deleteなどの NTP サーバー操作を実行できませんでした。バージョン 2.6.0.3 では、NTPServer Showコマンドで無効なNTPサーバーエントリが検出された場合、NTPServer Deleteコマンドを使用してそのエントリを削除できます。無効なエントリを削除すると、すべての操作で本来の機能を実行できます。

[Etrack インシデント: 3523005 (Etrack Incident: 2812749)]

- 関連付けられたプライマリ Etrack: 3518421
- 関連付けられたサービス要求 Etrack: 3518192
- 説明:  
NetBackup Appliance 2.6.0.1 から 2.6.0.2 にアップグレードすると、コールホームにより [Can't exec "dmidecode": No such file or directory (「dmidecode」を実行できません。該当するファイルまたはフォルダがありません)] というエラーメッセージをとまなう電子メールが 15 分毎にユーザーに送信されました。

## NetBackup Appliance 2.6.0.3 EEB (Emergency Engineering Binary) リスト

次の表には、特定済み、解決済み、およびお客様が利用可能な既知の問題が EEB の形式で含まれています。NetBackup Appliance 2.6.0.3 によって、これらの EEB のそれぞれで対応された問題が解決されます。このドキュメントが送信された後で、追加の EEB がリリースされている可能性があります。このセクションに一覧表示されている Etrack、またはその他のサービス要求 Etrack について詳しくは、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) を使用することをお勧めします。SORT にアクセスするには、次の Web サイトに移動します。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

また、この文書で参照することが期待されている EEB を参照できない場合や、この表内の問題について追加情報が必要な場合は、シマンテック社のサポートまでお問い合わせください。

メモ: 次の表には、NetBackup Appliance に関連付けられた EEB のみが掲載されています。このリリースで解決された NetBackup EEB の完全なリストについては、シマンテック社のサポート Web サイトの『NetBackup 7.6.0.3 リリースノート』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7221>

表 A-1 NetBackup Appliance 2.6.0.3 EEB リスト

Etrack 番号	EEB 説明
3402093	大量のデータを圧縮する必要があるとき、利用可能な領域の誤計算により、バックアップジョブの際にディスクの全領域が使用済みになる場合があります。
3387622	NetBackup Appliance のシェルメニューの[共有終了 (Share Close)]コマンドは、SMB サービスを停止しません。SMB は TCP 445 ポートで待ち受け状態を継続しますが、これはセキュリティ上の問題になります。
3450726	複製がキューへ投入済み(QUEUED)の状態ではングアップしていると見られることが、pdplugin.log のジョブ状態の取得によって報告されています。

## NetBackup Appliance 2.6.0.3 のその他の既知の修正

次のリストには、これまでにこのドキュメントの「操作上の注意」の章に記載されていた問題など、このリリースの NetBackup Appliance で修正されたその他の既知の問題が掲載されています。

- NetBackup Appliance 2.6.0.1 から 2.6.0.2 にアップグレードすると、NetBackup Appliance シェルメニューから IPMI ユーザーを管理できません。
- 権限を持つユーザーが NetBackup Appliance Web コンソールにログインしようとした際、ユーザーの権限が正しく設定されていない場合はログインページが空白になります。
- ハードウェアの監視中に、温度に関する警告が誤って送信されました。
- NetBackup Appliance のシェルメニューの [メイン (Main)] > [管理 (Manage)] > [ストレージ (Storage)] > [表示 (Show)] コマンドの [重複排除 (Deduplication)] の出力で、内部使用されている 4% のストレージが考慮されませんでした。このため、出力には実際に利用可能なストレージ容量よりも多くの容量が表示されました。
- OpenSSL CVE-2014-0224 の脆弱性は、このリリースで対応されています。



# 関連ドキュメント

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance のマニュアルについて](#)

## NetBackup Appliance のマニュアルについて

アプライアンスを正しくインストール、構成、使用できるようにするため、**NetBackup Appliance** には次のマニュアルが含まれています。これらのマニュアルは、次の URL にあるシマンテック社のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

表 B-1 NetBackup Appliance のマニュアル

ガイド	説明
Symantec NetBackup™ Appliance ハードウェアの取り付けと初期構成 ガイド	<p>このガイドは次の情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ アプライアンスハードウェアの物理的なレイアウトの紹介。</li><li>■ 開梱の手順、環境条件、安全上の注意事項などの設置準備手順。</li><li>■ ハードウェア構成手順 このセクションは、ラックにアプライアンスを設置し、アプライアンスケーブルを接続するために必要な手順について説明します。</li><li>■ ソフトウェア構成手順 このセクションは、<b>NetBackup Appliance Web Console</b> から、または <b>NetBackup Appliance Shell Menu</b> からの構成プロセスについて説明します。</li></ul>

ガイド	説明
Symantec NetBackup™ Appliance 管理者ガイド	<p>『Symantec NetBackup™ Appliance 管理者ガイド』は NetBackup Appliance のソフトウェアパッケージの一部として提供されます。このガイドはマニュアルの初期リリース以降に起きた更新を含む場合があります。最新の管理情報については常にこのバージョンのガイドを参照してください。</p> <p>『Symantec NetBackup™ Appliance 管理者ガイド』には次の種類の情報が記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 配備情報</li> <li>■ アプライアンスの管理</li> <li>■ 監視情報</li> </ul>
Symantec NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド	<p>『Symantec NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド』には、<b>NetBackup Appliance Shell Menu</b>から使うことができるコマンド一覧が掲載されています。このマニュアルはアプライアンスにインストールされる製品ソフトウェアの一部として提供され、シマンテック社のサポート <b>Web</b> サイトでは電子フォームで提供されます。</p> <p><a href="http://www.symantec.com/docs/DOC2792">http://www.symantec.com/docs/DOC2792</a></p>
Symantec NetBackup Appliance リリースノート	<p>このマニュアルでは、<b>NetBackup Appliance</b> のバージョン <b>2.6.0.3</b> について説明しています。リリース中の新機能に関する簡単な説明、リリース更新に適用される操作の注意、既知の問題が含まれます。</p> <p>このマニュアルは次の場所にあるシマンテック社のサポート <b>Web</b> サイトで利用可能です。</p> <p><a href="http://www.symantec.com/docs/DOC2792">http://www.symantec.com/docs/DOC2792</a></p>
Symantec NetBackup Appliance トラブルシューティングガイド	<p>このマニュアルには <b>NetBackup Appliance</b> に関する最新のトラブルシューティング情報が記載されています。次の場所にあるシマンテック社のサポート <b>Web</b> サイトで利用可能です。</p> <p><a href="http://www.symantec.com/docs/DOC2792">http://www.symantec.com/docs/DOC2792</a></p>
Symantec NetBackup 容量計画とパフォーマンスチューニングガイド	<p>この文書には、<b>NetBackup Appliance</b> およびバックアップ環境を最適化する方法に関する情報が記載されています。これにより、バックアップ要件を分析し、各自のニーズに最適なシステムを設計できます。</p>
Symantec NetBackup Appliance セキュリティガイド	<p>このドキュメントには <b>NetBackup Appliance</b> のセキュリティ機能、およびこれらの機能を使ってアプライアンス環境の安全性を確保するための方法が記載されています。</p>

ガイド	説明
Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices	『Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』のマニュアルはこの製品に含まれているサードパーティソフトウェアをリストし、サードパーティソフトウェアの属性を記載しています。このマニュアルは次の Web サイトから利用可能です。 <a href="http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/">http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/</a>

アプライアンスハードウェアについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

- Symantec NetBackup 5220 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 安全とメンテナンスガイド
- Symantec NetBackup 5220 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明
- Symantec NetBackup 5230 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 安全とメンテナンスガイド
- Symantec NetBackup 5230 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明